

銀行名	足利銀行
タイトル	「あしぎんPFI塾」の開催
取組み内容	<p>栃木県内では2件のPFIの取組み実績があるが、大手企業のアレンジによるものであり、地元企業によるPFI事業への参加に向けてノウハウの習得・向上、ネットワーク構築を目的として開催したものを。</p> <p>【主催】株式会社あしぎん総合研究所 【参加者】栃木県内企業17社（19名） 【講師】株式会社あしぎん総合研究所、一般財団法人日本経済研究所、当行</p> <p>【カリキュラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成27年4月17日（金） 栃木県が実施するPFI事業の説明、PFIの基礎知識 ・第2回 平成27年5月8日（金） 公表資料の見方、ワークショップ（地域資源を活用したプロジェクト） ・第3回 平成27年5月29日（金） 公表資料の見方、 ワークショップ（設計建設部門について提案できること、地元経済活性化） ・第4回 平成27年6月12日（金） リスク分担について、ファイナンススキーム、 ワークショップ（リスク分担の考え方とリスク対応策） ・第5回 平成27年6月26日（金） PFI事業に参加した地域企業による体験談 地域企業と大手の連携事例、意見交換会 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した地元企業は、参加手法、公表資料の見方、提案方法などを習得、ワークショップを通じて地域経済活性化に向けた具体的な提案を検討することができた。 ・栃木県での総合スポーツゾーン東エリア整備運営事業のPFI事業が進行しており、地域企業の参加に向けた意識の醸成、ノウハウ向上につながった。

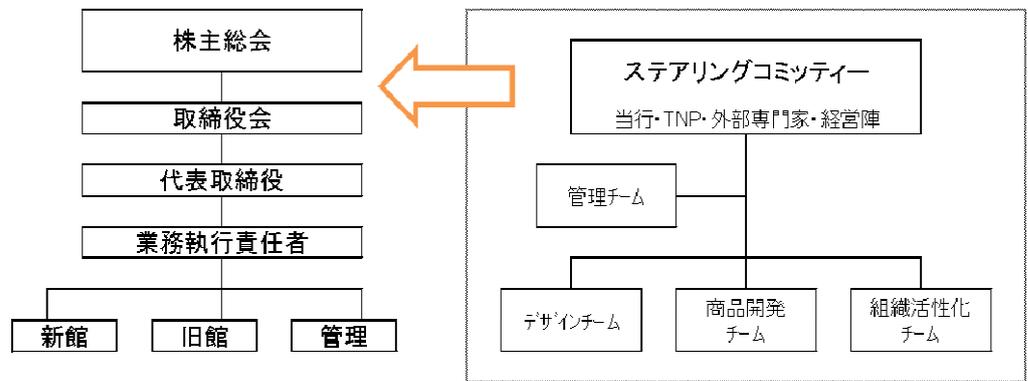
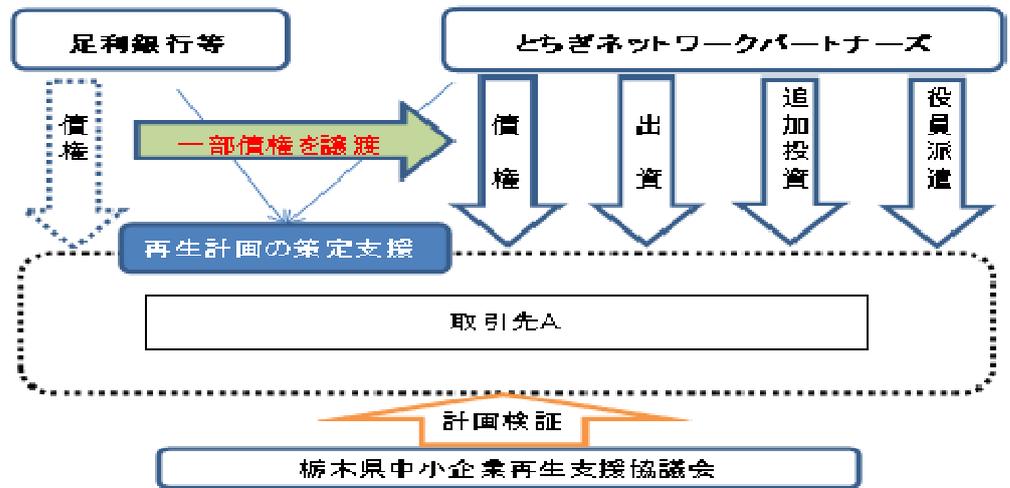


銀行名	足利銀行
タイトル	<p>創業者支援の取組み 「創業者懇談会」の開催について</p>
取組み内容	<p>【趣旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創業期の若手経営者に対して、経験豊富な経営者の方々から、経営面でのアドバイス等を行うことにより、地域の創業企業の発展を後押しし、ひいては地域の雇用創出、地域経済活性化（地方創生）に貢献することを目的に、「創業者懇談会」を実施した。 <p>【創業者懇談会の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催 足利銀行 栃木県産業協議会（昭和 56 年に栃木県内の有力企業経営者の経済団体として設立され、定期的な勉強会を通じて情報交換や異業種交流、後継者育成などを行っている） ・ 実施日時 平成 27 年 10 月 19 日（月）午後 3：30～ 3：40～5：00 プレゼンテーション 5：00～6：30 立食形式の懇談会 ・ 場所 宇都宮市内ホテル ・ 参加者 栃木県産業協議会の会員 30 名、若手創業者 5 組 7 名 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木県内の創業期の若手経営者が、自社の取組みについてプレゼンテーションを行い、栃木県産業協議会の会員が自身の経験を踏まえたアドバイス等を行う。 ・ プレゼンテーション後に、質疑応答が活発に行われた。 ・ 立食形式による懇談会を実施。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション後の質疑応答や懇談会を通して、若手経営者の「人脈の構築」に貢献。 ・ 他社の経営者から直接経営に関する助言を受ける機会を設けることで、若手経営者に「経営における気づき」を提供した。

銀行名	足利銀行	
タイトル	「あしぎんビジネスプラン・グランプリ」の開催について	
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生への取組として、成長が期待できるビジネスプランを発掘し、サポートすることで地域経済の発展に貢献すべく、「あしぎんビジネスプラン・グランプリ」を開催した。 ・第一回目となる今回は、当行の創業 120 周年記念事業の一環として開催した。 	
	<p>【あしぎんビジネスプラン・グランプリ概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新技術・新サービスを活用した革新的・創造的なビジネスプランを公募し、表彰する。 	
	<p>応募資格</p>	<p>当行営業エリア内の個人、法人、団体等 創業予定者・既に事業を営んでいる事業者を問わない。 新たに新技術・新サービスを活用して開始する事業の他、既に新技術・新サービスを活用して展開している事業も応募可能。</p>
	<p>募集期間</p>	<p>平成 27 年 11 月 10 日(火)～平成 27 年 12 月 31 日(金)</p>
	<p>スケジュール</p>	<p>27 年 11 月～12 月：ビジネスプランの募集 28 年 1 月～2 月：一次・二次審査 28 年 3 月：最終プレゼン審査、結果発表および表彰式</p>
	<p>表彰内容</p>	<p>(1)賞金 グランプリ 1 社：300 万円 優秀賞(複数)各 50 万円、奨励賞(複数)各 20 万円 (2)受賞プランへの事業サポート 【企業PR】マスコミ、当行本支店の店頭表示モニター、月刊誌等への掲載 【経営支援】外部コンサルとの連携、販路・仕入先紹介他</p>
	<p>主催・共催</p>	<p>主催：当行 共催：株式会社あしぎん総合研究所</p>
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募総数 214 件の中から、1 次書類審査および外部機関()の知見を活用した 2 次書類審査を経て、最終プレゼン審査会に進む 8 社を選定。 栃木県、栃木県産業振興センター、宇都宮大学、商工会議所・商工会連合会 ・3 月 17 日、最終選考に残った 8 社がビジネスプランをプレゼンし、外部機関を含めた選考委員 10 名により、グランプリ 1 社を決定。 <受賞総数> 13 社 グランプリ 1 社、優秀賞 3 社、奨励賞 4 社、特別賞 5 社 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞プランの事業拡大に向けた多面的なサポートを行うことにより、地域経済活性化に貢献していく。 		

銀行名	足利銀行
タイトル	再生ファンドの活用による事業の再構築
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからビジネスホテルを経営するA社は、ホテル3棟保有に加え、チャペルの併設などを施しコミュニティホテルとして体制を整えた。 ・一方で、全国ホテルチェーンの出店が相次ぎ、競争激化。結婚式も形態多様化し取り込み鈍化、過去の設備投資に向けた借入金が過剰債務化していった。 ・過剰債務解消に向け、平成22年にDDS（デット・デット・スワップ）100百万円の金融支援を行ったものの、直後に東日本大震災が発生し事態は一層深刻化した。 <p>【支援の内容】</p> <p>当社は地域での有用性（規模、観光拠点、雇用）高く不可欠な事業体であることから、債権放棄以外に再生の途はないと考えた。</p> <p>中小企業再生支援協議会、外部専門家、中小企業再生ファンド（とちぎネットワークパートナーズ、以下「TNP」という。）に支援要請を行い、当行とともに以下の主導的な役割を果たした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・再生計画の策定を支援（スキーム：第二会社方式） ・TNPが再生に必要なリニューアルに向けた設備投資資金を対応 ・TNPが取引全行のプロパー債権を購入 ・経営責任をとって辞任した代表者に代わり新たな代表者および役員を派遣 ・通常の組織体制に加え、当行、TNP、外部専門家、経営陣で組成する「ステアリングコミッティー（図参照）」を組成し、計画施策の履行に向け関与継続中。 ・オーナー一族に対し、TNPが保有する承継会社株式についてEXIT時には「先取権」を付与することでモチベーションを維持。 </div> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A社への一連の支援を通して、事業の継続につなげ、地域における雇用の維持に貢献した。 ・A社が観光地に与える影響は大きいものがあり、観光地の維持・発展の観点からも有意義な支援となった。

【俯瞰図、ステアリングコミッティーイメージ】



銀行名	足利銀行
タイトル	事業承継支援を通じたM & A成約事例
取組み内容	<p>【経緯・支援内容】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(買い手) A社 業種：電設資材卸売業、従業員数：130名 (売り手) B社 業種：ソフトウェア開発業、従業員数：16名</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年、B社の前社長が急逝。相続により、前社長の配偶者がB社を引き継いだ。 ・新たに就任したB社現社長は、自身にソフトウェア開発等の当社事業に関する知識がないことから、B社の経営について、経理を除き幹部社員に委ねていた。 ・平成26年1月、当行の渉外担当者C(D支店)は、現社長との面談で、「息子にB社を引き継ぐ意思がないこと」や「経営を幹部社員に委ねる現体制に限界を感じていること」を把握し、本部に報告。渉外担当者Cは、本部の事業承継・M & A担当者(以下、「本部担当者」と共に、現社長が抱えている課題の解決策として、M & Aによる株式譲渡を提案。その結果、現社長が自社の売却を決断し、当行は、買い手の紹介を依頼された。 ・一方、平成27年7月、当行の渉外担当者E(F支店)は、A社社長より、今後の事業拡大を目的とした同業種の買いニーズがあることを確認し、本部に報告。情報を受けた本部担当者は、B社とのマッチングの可能性を感じ、渉外担当者Eと共に、改めてA社社長にニーズを確認したところ、IT事業への参入にも興味があるとの回答があったことから、B社の情報を提供。A社社長が買収に強い興味を示したため、当行が仲介役となり、両当事者からM & A業務を受託。 ・交渉当初、B社現社長は、A社が異業種であることに不安を抱いていたものの、当行が、B社現社長に対し、A社にはソフトウェア開発の技術やノウハウがないことから、当面、B社社員を継続雇用する可能性が高いこと、A社がB社の近隣にあり、今後、勤務先がどちらになった場合でも社員が転居を要する可能性が低いこと、A社の財務基盤が厚く、これまで資金不足で取り組めなかったプロジェクト等にも積極的に取り組める等のメリットがあることを助言したところ、B社現社長が理解を示したことから交渉が進展。 ・平成27年9月基本合意締結。 ・平成27年10月株式譲渡契約、資金決済 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の事業承継支援を通して、産業と雇用の維持に貢献した。 ・地元企業の新規事業への参入支援を通して、事業の発展に貢献した。

銀行名	足利銀行
タイトル	<p>金融経済教育への取組み</p> <p>【1】全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会の開催</p> <p>【2】「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」の開催</p> <p>【3】宇都宮大学への寄附講座</p>
取組み内容	<p>【1】全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年より、例年「全国高校生金融経済クイズ選手権『エコノミクス甲子園』栃木大会」を約 30 名の行員が運営スタッフとなり開催している。 ・平成 27 年 12 月に開催した第 3 回栃木大会では、栃木県内の高校 9 校 15 チーム、30 名の高校生が参加。 <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ラウンドで「筆記クイズ」、続く第二ラウンドで「早押しクイズ」、決勝ラウンドでは「記述クイズ」で競う。事前に配布したテキストからの出題のみならず時事問題も出題され、日頃からの経済全般に対する関心の高さが問われる問題となっていた。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した高校生たちはみな真剣に取り組み、「県内の他校の高校生としてのぎを削ることができてよかった。」「これからも金融・経済の勉強をしていきたい。」等、好評を得ている。 <p>【2】「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年より、例年夏休みの期間を利用して、地域の子供たちにお金の大切さや銀行の役割を楽しく学んでもらうため、小学生 4～6 年生とその保護者の方を対象とした「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」を開催している。平成 27 年は第 7 回目の開催となり 21 組 46 名の児童とその保護者が参加。 <p>(カリキュラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おこづかいゲーム」は栃木県金融広報委員会の協力によるもの。もらったおこづかいから預金やお買い物をするたびにおこづかい帳をつけてお金を管理するゲームでお金の上手な使い方を学ぶ。 ・子供たちが「おこづかいゲーム」をしている間、保護者の方々には「子供たちへの金銭に関わる教育方法」などの講義を実施。さらにお金に関するクイズや銀行の仕事と役割、銀行本店内の見学など、一日を通したカリキュラムを実施している。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にはおこづかい帳のつけ方や銀行業務について楽しく学んでもらい、参加保護者には、お子さまへの金銭教育の指導を講義するなど、好評を得ている。 <p>【3】宇都宮大学への寄附講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年より、地域の発展や社会貢献および人材育成に資する取組みの一環として、例年、宇都宮大学への講座提供を行っている。当行および関連会社の役職員が講師となり、「地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”」をテーマに、全 15 回単位数 2 単位の講座を実施している。

【講座内容】

	内容
第1回	オリエンテーション（今後の授業の概要、当行の歴史等）
第2回	当行設立の背景（直接金融・間接金融、信用創造、明治期の織物の生産・流通の仕組み等）
第3回	北関東の経済情勢と経済を見る物差し
第4回	「電子マネー」は貨幣といえるか？（貨幣と決済、信用について学ぶ等）
第5回	大正期における金融経済情勢と当行の状況、大正期のバブル経済を踏まえた平成のバブル等
第6回	峰町支店見学
第7回	当行の「地方創生」への関わり
第8回	銀行のリスク管理と健全性の確保
第9回	A B L を活用した中小企業活性化支援
第10回	戦後の金融情勢と当行等
第11回	平成28年度の日本経済と地域経済の見通し
第12回	銀行におけるC S R
第13回	金融の円滑化と地域密着型金融への取り組み
第14回	資産運用の必要性について
第15回	地域金融機関の今後の課題・対応、これまでの講義のまとめ

銀行名	足利銀行
タイトル	<p>環境保全への取組み</p> <p>【1】足尾の山への植樹活動</p> <p>【2】『あしぎんの森』の創設</p>
取組み内容	<p>【1】足尾の山への植樹活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年より、例年「新入行員社会貢献活動研修」の一環として、新入行員全員による公害で荒廃した足尾の山への植樹を行っている。 ・平成 27 年度は、当行新入行員 80 名とともに栃木県内の有力企業経営者の経済団体である栃木県産業協議会会員企業の新入社員 102 名が参加した。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹後には、足尾が荒廃した歴史を振り返りながら「環境問題と企業の関わり方」という環境問題に関する講義を実施。職員への啓蒙に努めている。 <p>【2】『あしぎんの森』の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 12 月に、栃木県、矢板市と「企業等の森づくりに関する協定」を締結し、栃木県県民の森（矢板市）に『あしぎんの森』を創設。 ・平成 24 年 4 月に植樹式を執り行い、当行職員とその家族 250 名が参加し、森面積約半分の 0.25ha にヤマザクラやイロハモミジなど 715 本を植樹。平成 25 年度も総勢 300 名で残り半分の斜面への植樹を実施。2 年間にわたり延べ約 550 名による 1,455 本を植樹している。 ・この植樹により、栃木県より「とちぎカーボンオフセット制度」に基づく計 2.88 トンの CO₂ 削減が認証された。 ・平成 26 年度からは歩道整備や下草の除去・伐採など整備作業を行い、平成 27 年 10 月、約 70 名の役職員による歩道整備や下草刈り等の環境整備活動を実施。また、歩道手前にヤマアジサイ（20 本）の植樹を行った。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『あしぎんの森』は、県民の森の駐車場および遊具が設置されている広場に隣接しているので、ここを訪れる皆さまにヤマザクラ等の四季折々の自然の美しさを感じて頂いている。